

いなみ町 議会だより

No.104
2025.1



令和6年 第4回定例会

議案審議 P2 一般質問(5名が登壇) ... P3～P7
視察報告 P8

真妻山初日の出



12月定例会は12日に開会。議案25件。議案はすべて認定、可決、承認し、18日に閉会しました。

議案審議

議案に対する各議員の賛否

○= 賛成 ×= 反対

種類	議案番号	議案内容	黒井	木村	岡本	谷	中島	片山	古川	杉谷	玉置	榎本	前田	堀口
条例	57	印南町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	58	印南町印鑑条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	59	職員の給与に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	60	印南町地域包括支援センターの運営及び職員に関する基準を定める条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
予算	56	令和6年度印南町一般会計補正予算(第3号・専決)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	67	令和6年度印南町一般会計補正予算(第4号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	68	令和6年度印南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	69	令和6年度印南町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	70	令和6年度印南町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	71	令和6年度印南町農業集落排水事業会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	72	令和6年度印南町水道事業会計補正予算(第3号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
他	61	和歌山地方税回収機構の共同処理する事務の変更及び和歌山地方税回収機構規約の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	62	損害賠償の額の決定及び和解することについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	63	損害賠償の額の決定及び和解することについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	64	損害賠償の額の決定及び和解することについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
人事	65	教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	66	教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	認定1~8	令和5年度各会計の決算認定	決算審査特別委員会の委員長報告は全て認定本会議において全て満場一致で認定されました											

※議長は裁決に加わりません

町道ふるさと線の 横断歩道について



片山 智文
議員

質問 印南郵便局前のかえる小橋手前と、駅からの合流地点に、駅方面から来る人々の横断歩道があります

が、その地点から役場上の町道山口西ノ地線までの全長439.8mの町道ふるさと線区間には、横断歩道がありません。

役場周りの高台には、約13年前の平成23年に幼保連携型認定こども園、いなみこども園が設立し、平成29年には印南町役場、令和5年には印南町防災福祉センターが設立しました。

また、未来投資事業におけるインフラ整備もされ、宅地が益々増えてきており、民間の特別養護老人ホームも所在しています。

この一帯は、子供を含めた人口増加エリアですが、宅地集落から子供達が小中学校への通学時、ふるさと

線の歩道は集落から反対にあるため、子供達は適当な場所で道路を横断して歩道に入るしかなく、危険が伴う状況が続いています。

下り坂でスピードが出ている車が行き交う道路ですので、子供達の安全を守るためにも横断歩道の設置、または横断指導線を検討いただきたいです。

答弁 建設課長

令和6年度の通学路合同点検実施時、警察からは見通しの悪い場所への横断歩道の設置は困難であるとの見解でした。

対策として、交差点や歩行者があることを啓発する横断指導線や通学路の旗の設置、車両の速度抑制などを啓発する路面標示が有効な対策だと考えるため、歩行者横断の利用実態や、効

果的な路面表示を検討していきます。

質問 町道は中学校統合に伴い、更に交通量が増えメイン道路になると考えます。

横断歩道上での事故の過失割合は極めて重大であり、信号機のないところでの横断歩道上の事故は歩行者0%、車100%となります。そういう観点からも、子供達だけではなく、高齢者、そして住民の安心・安全の交通安全対策の一つとして横断歩道の設置を強く要望します。

答弁 建設課長

御坊警察署が現地を確認した上で、横断歩道の設置は困難であるという判断ですので、路面標示が効果的だと考えます。



切目橋下流の浚渫について



古川 眞
議員

川管理者である和歌山県と協議し、適切な河川断面を確保できるよう、適切な維持管理を協議していきたいと考えています。

質問 切目橋下流の浚渫が気になってます。現状を見ますと、波が川に砂を押し流し、その砂が下流に流されます。

浜が切れると下流の水位は下がりますが、下流に溜まった砂はそのまま残ります。

後日、台風が接近すると同じ現象が繰り返し、川底はさらに高くなります。

水面が上昇すると、地内の水害が心配されます。ここで質問します。

現在の状況を見て、どのように思われますか。

答弁 建設課長

河川内に土砂が堆積し、河川の断面が狭くなっていることは確認しています。

質問 波により砂を川に持ち込まない対策が必要です。

以前、沖合に一文字波止場の設置について質問しましたが、このような対策でないと対処できないと思います。町はどのように考えますか。

答弁 建設課長

現在、日高管内で、県が実施している県管理の煙樹ヶ浜沖の離岸堤事業は、令和5年度末の進捗率30%の段階で約25億円の事業費を要していると聞いています。

これを切目海岸で実施すると、それに近い費用を要し、費用対効果からも現実的ではなく、河川内に堆積した土砂の撤去、浚渫事業が一番効果的であると考えています。

質問 台風が来るごとに砂が入って堆積されます。堆積状況により、年に何回かやってもらえるとの理解でよろしいですか。

答弁 建設課長

河川の管理者である和歌山県が適切な河川断面を確保できるよう、都度、要望していきたいと考えています。

質問 一文字の代案として、消波ブロックを置くとかの検討はできないのでしょうか。

答弁 建設課長

消波ブロックの設置については、越波による実被害がなく、全て町単独費用になるので、現実的ではないと考えています。

越波による砂の流入については、これまで同様、河



宇杉ヶ丘団地の町道、歩道の管理について



岡本 庄三
議員

質問 団地内及び取合せ道路、歩道には、造成当初より桜が植栽されていますが、多くの木は一部が枯れたり腐ったりして健全な状況ではありません。

また、大きく成長した木は、「根上がり」により歩道の舗装を持ち上げ歩行が危険な箇所もあります。このような状況では、今後、台風の暴風等で倒木する危険もあり、通行の妨げや家屋被害等も懸念されます。そこで、お聞きます。

答弁 建設課長

一部桜の根によって歩道の舗装が浮き上がっていることは確認しています。通行に支障がある箇所、

また、危険な木については、伐採も含めどういった対応がいいのか、専門業者に相談をし、今年度内には対応を考えたいです。

質問 統合中学校建設により、今後通学路としての利用もあると思います。安全性の確保のため、枯れた木を伐採し、改めて植栽されてはどうでしょうか。

答弁 建設課長

調整池から上がってくる道路の部分が通学路として利用が多くなると考えています。

例えば歩道を自転車が行く際に、車道との間にガードパイプを設置するといったふうな整備などが考えられるのか、そうなった場合には、桜の木の伐採も含めた検討が必要と考えて

います。

中学校建設地造成事業と並行し、光川地内の町道の測量設計を行うなど、その他にも整備をしなければならぬ路線もあるかと考えます。そういった路線の進捗を見ながら、時期については検討します。

防災福祉センターについて

質問 防災福祉センターの受付カウンターのハートビルの法やそれに基づく県条例の車いす対応になっていません。

公共の福祉センターとしては好ましくないと思うので車椅子等の福祉対応に改修しませんか。

答弁 住民福祉課長

必要に応じて検討します。



業者に対応できるか確認を取っていますが、今すぐここで答えることは差し控えてさせていただきます。

令和7年度予算編成計画への増額依頼について



黒井 美晴
議員

質問 次の2点について増額を考えていただきたい。

1点目は、「農業用施設整備事業」です。

本年度は大きな災害もなく、小規模災害の復旧補助金も少額だったと考えられます。

しかし、すでに今年度も4ヶ月を残して本事業費が底をつき、適用申請・工事は次年度の4月からと聞いています。

本事業は施設の改良・改修・維持修繕、小規模災害の復旧等の農業生産の条件整備を目的であることは基より、猪等によるプラス災害と次年度の災害も考慮する必要があります。

次年度は今年の4ヶ月分を含めた予算の上乗せが必要と考えますが、いかがですか。

答弁 建設課長
件数や内容を十分把握したうえで検討したいです。

質問 2点目は「生活道の安全対策」費用です。

白線の引き直しは安全対策に効果がある事は、誰もが共通認識できます。

しかし、毎年の少予算内での対策には限りがあります。一度思い切った予算増により、対応してはどうでしょうか。

また、ガードレール・ガードパイプの設置要望を提出しても3年近く待たなければならぬ実態にあります。思いきった予算措置による「安全対策強化」をお願いします。

答弁 建設課長

現行予算で要望箇所の対応をしながら、道路維持管

理費等を活用し柔軟に対応していきます。



JR稲原駅近くに
架かる歩道橋の
今後について

質問 町では、令和8年までに歩道橋の残置か、もしくは撤去かを地域住民の意見を聞き判断すると聞いています。

本歩道橋は、稲原駅へのバイパス道として利用されており、一番必要としている該当住民は「残してほしい」

い」との要望があるが、いかがですか。

答弁 建設課長

南海トラフ地震等により倒壊した場合のリスクや修繕工事を施工する時、安全性を確保するため、JRに委託する必要があります。

経費が通常以上にかかることなどを考慮し、廃止も含め、早い時期に地元の意見を十分聞かせていただき検討します。



国民健康保険税の子供の 均等割り軽減の充実を



榎本 一平
議員

質問 国の制度として、令和4年度から公費を上乗せし18歳までの子供がいる世帯の国民健康保険税が減額されています。

物価高騰など町民の経済的負担は限界にきており、子供がいる世帯の更なる国保税の減額を求めます。

答弁 税務課長 全国知事会でも、子供がいる世帯の国民健康保険税の軽減の充実を図るよう求めています。

このことからさらに子育て支援が拡大していくと考えます。

コミュニティバス運行に対し議会の指摘 に対しての認識は

質問 令和4年度の決算審査において「高齢化が進行

しているのにコミュニティバスの利用が減少傾向にあり、移動手段の確保に努められたい」と指摘していますが、その認識はありますか。

答弁 企画産業課長 重要な行政課題と認識しています。

質問 コミュニティバス運行を充実するために高齢者の実態調査を行うように求めます。

答弁 企画産業課長 調査はしています。行政で方向性を決め、他の自治体の実情などを調べ進めていきます。

12月2日からの 紙の保険証の対応は

質問 12月2日から現行の保険証は廃止され、新規の発行はストップになりました。

2日以降、役場の窓口にご相談や問い合わせなどなかったですか。

答弁 住民福祉課長

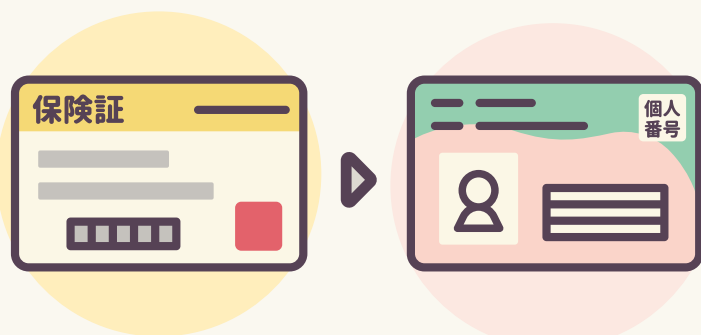
「今の保険証は使用できなくなるのか」、「資格確認書や資格情報のお知らせはまだ、送付されないのか」など数件の問い合わせがありました。

質問 各保険証の使用期限はいつまでですか。

答弁 住民福祉課長

国民健康保険は令和7年3月31日、後期高齢者医療

は令和7年7月31日、協会けんぽや公務員の保険証は令和7年12月1日となっています。



防災機能を兼ねた 小中学校の視察に 行きました

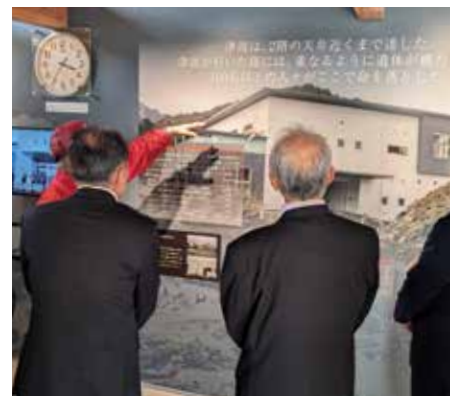
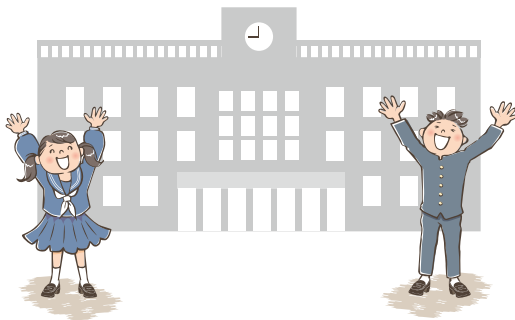
令和6年10月29日、30日に印南町議会議員と日裏町長、脇谷副町長、平尾教育長で、岩手県釜石市と大船渡市を視察しました。

釜石市では、東日本大震災において市内で最も被害が大きかった地区である鵜住居（うのすまい）町を訪ねました。

多くの方が亡くなった一方で、学校管理下にあった子どもたちが全員生き延びたのか等の説明を現地の語り部さんから聞きました。祈りのパークや、いのちをつなぐ未来館などの視察を通じて津波から身を守る術を学び、巨大地震・津波の脅威と、それに対する備えの重要性を再確認しました。



大船渡市では、防災機能を兼ねた赤崎小学校及び東朋中学校を視察しました。両小中学校では、学校施設において、避難所としての役割を果たすうえで備えておくべき機能や、建物としての工夫など、多くを学びました。



議会広報特別委員会

■ 委員長 前田 憲男 ■ 副委員長 片山 智文
■ 委員 黒井 美晴 / 谷 章資 / 中島 洋 / 古川 眞